

ごみ焼却場建設地は 小口地区に決定

市では、ごみ焼却場（グリーンセンター）建設地を選定するための地区特性と土質の調査を二月から三月に渡って行ってきましたが、さきごろその結果がまとまり、建設候補地として上がっていた小口地区に建設することが最終的に決まりました。

ごみ焼却場の建設は、昭和六十二年以降市内数箇所の候補地で建設同意を得るべく交渉が持たれてきましたが、結果的に同意を得るに至らなかった経過がありました。ごみ排出量の増加と処理施設の老朽化が一日と進んでいくだけに、ごみ焼却場の建設地は一日も早い決定が望まれていました。

施設を支える地盤 などを調査し選定

幸いにも、昨年度、小口地区と蒲ヶ沢地区の皆さんからご理解とご協力を得て、建設同意をいただくことができました。

これを受け市では、ごみ焼却場が市政の根幹構造物であることから、建設地決定にあたり、両地区の特性や土質の調査を行い慎重に検討してきました。具体的には、施設を支える地盤の強度や将来の維持管理、農業振興法除外などを総合的に判断して、小口地区を建設地として選定しました。

位置を選定するまでの間、蒲ヶ沢地区をはじめ、各地区の皆さんからたいへんご協力をいただきましたことを心からお礼申し上げます。

なお、ごみ焼却場は、今年度建設地の環境アセスメント（環境評価）、現地測量などを行い、来年度工事着手、平成八年供用開始の予定で進められます。

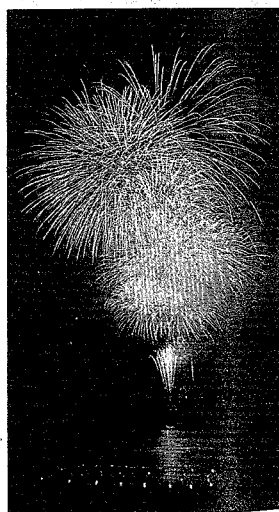
みんなで創ろう魅力ある新津！

「あなたのメッセージを乗せ、秋葉の空に花火を打ち上げよう」という夢のある企画が、今、市民の皆さんの力の結集で進められています。

日常生活がどんどん文明化しつつあるなかで、私たちの心をやさしく包みホッとさせるふるさと。このふるさとをいつまでも大切にしたい。こうした市民の気持ちをも一つの形に表現できないだろうか。にいつ大花火大会の企画は、この小さい夢から市民の大きな盛り上がりへと生まれ変わり、その輪が広がっていくあります。

新津の名物にもと進められている花火大会は、従来の見物するだけの花火ではなく、花火を買っていただく

大花火大会実現に 市民の大きな輪



8月14日、秋葉山の空高く、花火が上がります。

くという形をとりながらも、市民の、そして新津を思う人々の願い、喜び、やさしさをメッセージに込め、打ち上げるといふユニークなものです。「おじいちゃん、長生きしてね」や野球チームの「優勝おめでとう。がんばったね」など、心あたまるメッセージは、花火と同じようにふるさとと心として私たちの中に残っていくに違いありません。

「人を愛し、家族を愛し、まちを愛する」新しいまちづくりイベントが、新しい新津を創っていく予感があります。新津大花火大会を市民みんなで成功させたいものです。

くわしいことは、号の広報に折り込みましたチラシをご覧ください。

お買物、ご用命は市内で

生ビールまつり開催中

中ジョッキ300円
新作「しか肉」料理始めました

ダンスパーティー

横浜亭

6月17日(水) 午後6:30から
予約 1,000円 当日 1,300円 本町2 ☎22-2225

●あなたの安心を企画する●

有限会社 樋口保険企画

☎0250-22-6774 FAX0250-24-9110
☎956 新津市金沢町3丁目7番20号

お住まいの水まわり

見直して見ませんか

浴室 キッチン トイレ ……

水まわり増改築専門店

シロムショップ かねみや
本町2 ☎24-1630



電化製品で まごころのキャッチボール

東芝・松下
日立・ソニー
ビクター・シャープ
パイオニア
みんなOK

ソーワです

株式会社 ソーワ
(旧社名 八重電商事)

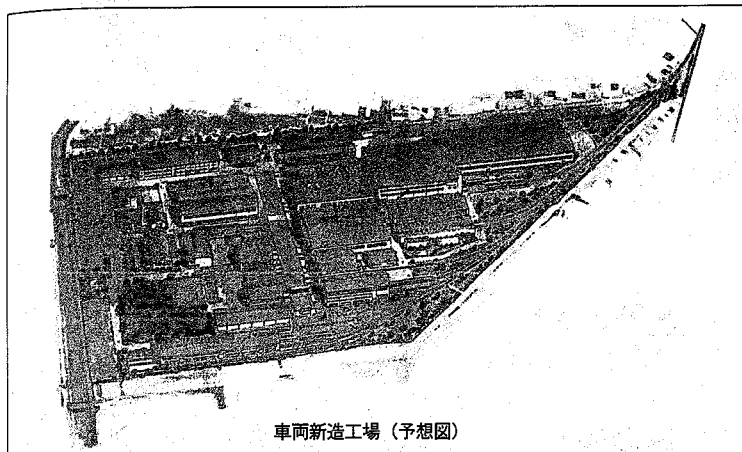
本町2 ☎24-3131

鉄道のまち復活へ高まる期待

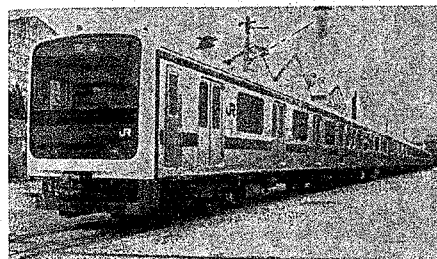
南町にJRの車両製造工場

JR東日本は去る四月二十八日、市内南町に車両製造工場を新設する計画を発表しました。

新工場の建設は今年夏に着工し、平成六年秋に操業する予定です。自社で車両の製造に乗り出すのは全国



車両新造工場（予想図）



新技術の粋を集める 年間二百両を生産

JR新潟支社によると、工場は現在の新津車両所の敷地（約十四ヘクタール）に建設されます。新造工場は二万三千平方メートルで、既存の建物を加えると四万三千平方メートルの面積となります。

JRは通勤電車だけで約

八千五百両を保有していますが、年間約四百両を外部車両業者に発注しています。

新造工場では、首都圏を走る通勤・郊外型電車を中心に車両の設計と製造を行い、年間二百両の生産を計画しています。新工場の特徴は、「最新技術の粋を集める、鉄板などの素材からの一貫生産システム」にあるといわれ、生産設備は極力ライン化し、造船メーカーで採用されているコンピュータやロボットを使った設計・製造システムが導入されます。

も行っており、これらの工場も新造工場の建設地の候補に上がっています。その中で新津市が選ばれた理由として、技術的ノウハウの蓄積（長年の経験と技術を持った人材の活用）と広い用地という優位性が高く評価されたといわれます。

魅力あるまちへの 展開が今後の課題

車両製造工場の建設決定は、「鉄道のまち」復活をめざす新津市にとってとても明るいニュースです。鉄道のまちの長い伝統と蓄積がもたらしたこの事業計画を機に、人口の定着、まちの活性化の起爆剤といった側面だけでなく、経済・文化を含めた魅力ある独自のまちづくりにつなげるのが今後の課題です。特色のある「鉄道文化村」の構想の実現化など、市民の皆さんと力を合わせ、イメージだけでない本当の鉄道のまちの復活に取り組みしましょう。

お買物、ご用命は市内で